

平成24年度 第1回岡山県文化振興審議会

日 時：平成24年6月6日（水）14時～

場 所：三光荘パブリゾン

1 開 会

環境文化部長：あいさつ

2 議 題 「おかやま文化振興ビジョンの見直しについて」

事務局：中間見直しについて資料に基づいて説明

委 員： 天神山文化プラザは美術関係がとても充実。演劇関係も盛んになっている。ルネスホールは音楽の方から出発して美術関係がまだこれからか。人の広がりも広がっている実感はする。

ただ喜んでもらったらいだけではなく、広さと高さは必ず両立するものと思っている。音楽関係で言うと高さを極める人がいなければ広くもならない。だから、その間を埋めていくのが私個人と一緒に動いている者たちの役目と思い、場を提供したり励ましている。文化連盟の文化人材バンクは素晴らしい。現場の先生方の意識が変わってきている。年を追うごとにどんどん自分なりの経験を深めて子供たちにも目標を持って当たってくださっている実感がある。ぜひ続けて欲しい。違う分野のほうにも広がりがあるといい。教育現場との連携は重要なことではないか。一番最初に何が耳に入るか、何が目に入るかということがどんなに大切かということを実感している。

専門家としては、みんなが知らないと嘆くよりは、それを知ってもらう努力を私たち（専門家）があまりにもしてないのではないかと反省した。教育との連携になるが、伝統文化があまりにも目に入らなかつたり、耳に入らなかつたりしているのではないか。人としての素養の中にそういうものが入ってくれば、自分の専門分野ももっと深くできるのにと思うことが多々ある。もっと努力をして、知ってもらうチャンスを作るということが大事である。

委 員： 天神山文化プラザは、指定管理者の制度の数少ない成功例。よく頑張っている。また、文化人材バンクもよく頑張って成果を上げてくれている。文化のプレイヤー、クリエイター、鑑賞者というのは、どんどんレベルが高くなっている。岡山のプレイヤーもレベルが高い。文化人材バンクをやって感じるのは、コーディネーター、オーガナイザー、プロモーターという、いわばプロジェクトとか事業のプロデューサーみたいな人の働きがとても大きい。コーディネーション、オーガニゼーション、プロモーションができる、いわばプロデューサーがいることがものすごく大事だと思う。文化のシーン全体についてそうである。行政が指導するのではなくて、プロデュース出来る人たちを、行政が助けてあげることが大事である。そうすれば民間はずいぶん活発になる。

もうひとつは、施設の利用について行政の予約は一年前から可能で、民間は半年前からというような官民の差別を無くすこと。そうすれば、岡山の文化シーンはすごく良くなる。民間からのプロデューサー機能、コーディネーター、オーガナイザー、あるいはプロモーター機能が育ってくるような仕組みを作れば、これから長い期間定着していくだろう。あつ晴れ組のように、舞台裏をしっかり押さえられる民間人がこれからたくさん出てくるのが、岡山にとって大事ではないか。

委 員： 文化のプロデューサー、文化を縦横無尽に歩ける人がいれば、文化全体が素晴

らしい花を咲かせていくのではないか。民間に埋もれてる能力というのはまだあるのではないか。

委員：文化振興ビジョン、良くできていると思う。基本方針、施策の方向性、重点施策を含め、多く見直すようなところは無いのではないかと考えている。ここまでの県の文化行政は、国民文化祭を成功させるというのが最大の課題だった。次は、国民文化祭を機に広く深く高まった県民の文化への関心、理解、文化を創造するという意欲、これを将来へつなげていくことが大変重要になってくる。これからの行政の役割は、支援、サポート、仕組みを作るところをしっかりとやっていかなければならないと思う。特に、地域の文化活動を先導していくような人材をそれぞれの文化、それぞれの地域でいかに育てて行くかが課題である。やはり岡山県文化連盟をさらに大きく育てて行くことを怠ってはいけない。各種文化の分野別の文化団体や、市町村文化協会等が集まっている県の文化連盟への目配りというのは、行政としても今後しっかりお願いしなくてはならない。

委員：それぞれの文化を持った地域が合併し市になったわけだが、それらをひとつの市として発信するには何が必要なのかという話を市長とした。伝統的な祭りを地域住民が世代を超えて開催し、引き継いでいくことこそ、そこに住む次世代がいろいろな世代や分野の人と共同でひとつのプロジェクトを成し終えていくという、体に染み入るようなオーガナイザーを育てることにならないか。

また、新しい人たちがそこで何かを興そうとする場を、門戸を開けて開いていく必要はこれからも必要である。岡山県の文化と、自分の生活をリンクさせていく手法を洗い直さないといけない。芸術回廊も、いろいろな文化団体やNPOが集合体としてひとつの祭りを作ろうとしている、新しい気流のように見えて、新しい人々を巻き込みながら継続されるというのも、新しいコーディネーターの養成につながると思う。

委員：異質の融合、全体と個というものを、各人それぞれが把握するようになれば、文化はものすごく生き生きとするのではないか。自分がやってることが全体の中で何なのかということ、意識するのとしらないのとでもものすごく違う。

委員：重点施策がそれぞれどういう関係にあるのかという見直しが必要と思う。縦割り行政の下に縦割りNPO、縦割り民間事業、といったものになってしまわないか少し危惧を感じる。具体的な事業が施策の方向性とどのように関わっているのかの洗い直しをもう一度していただき、「全体としてこの基本方針に関わっていく、そして、岡山県の文化振興につながっている」、という全体への意識がそれぞれの事業者にも伝わるような配慮をしていくということが必要ではないか。民間の人、やりたいと思ってる人とつながっていただけたらと思う。

また、学校の現場の厳しい状況を何とかしていかなければということも忘れていただきたくない。文化人材バンクを活用することを通して、学校の先生の中にも文化の担い手としての意識が育っていく。音楽や美術を専門分野として担当できたり、サポートが行える人材を確保していただきたい。文化に関わる意欲ある先生の確保、配置というのが不可欠ではないか。子供たちを表現者として育てていくという専門的な方法や、裾野を広げて高いレベルの芸術文化を享受する鑑賞者をたくさん育てていく方法も必要だが、やはり担い手を育てるということも大切である。学校現場でも、担い手としての教員、そして次世代が担い手となりうる教育を進めていきたいので、これからの施策に期待するとともに、教員養成を変えていかなければと思っている。

委員： 日本の文化行政の一つのモデルになるような形、わずかな所、パーツで良いから日本の文化行政に対して穴を開けたりくさびを打ったりするようなメニューを考えたい。岡山からの文化発信という中にやはり日本の文化行政に対して、参考になるような具体的な重点施策がどこかに出るのを期待したいし、私達も頑張るべきではないかと思う。

例えば伝統文化について、岡山県の伝統文化に関するハンドブックは今まで無い。例えば指定文化財だけで言うと、国の指定文化財、県の指定文化財、市町村の指定文化財があり、それぞれ指定した時に何らかのコメントや歴史的な由来を書いているが、バラバラである。具体的な施策としてそういうハンドブックを作り、県民が広く共有しないと、インターネットでどんどん誤った書き込みがされる。日本文化の中で正当に主張できるものをきらっと取り入れ、それを県民の人が共有できる、いつも棚から出して何かしゃべるとき時はそれを見ながらしゃべるといような伝統文化のハンドブックを作るといいのではないか。

委員： 全体を把握して個の部分を高めていけたら素晴らしい。岡山の文化というのは良い方に異質で凄いものを持っている。伝統芸能のみならず一般文化財でもハンドブックはない。難しい言葉で難しく書かず、中学生に分かるくらいに書いて、「文化財は難しいんだよ」って言わずに「文化財って生きる姿ですよ」といような、優しい書体で書けば自分のものになるし、そういう訓練をしておけば大人になった時に全体も見えるし個も見える。

委員： 文化というのは行政の区割りではない。文化的なDNAはどの範囲にあるかということをお岡山県が示すだけでも、全国で大変な事である。例えば牛窓の唐子踊りを唐子踊りだけで説明するのではなく、朝鮮通信使、広島県の鞆（とも）、牛窓、兵庫県の村との関係のように、行政域を越えて触れるだけでも岡山県はすごいという事になる。神楽で言うと備中神楽を単独で紹介するのではなく、作州や安芸の神楽と違った、備中・備後で元々DNAを同じにしたカテゴリーというのでできる。そういうものができれば岡山県人としては誇りを持って話せる。

委員： パソコンの普及で、手書き文字離れをしていく子どもが多くなっている。現在、小学校で書写は国語の中に入って、評価されない。日本人の子どもが、日本語が上手に書けなくても、ひらがなが出来たら親はもう英語を習いに行かせるという現象にある。やはり底辺の子供、若者というところへ本当にスポットを当てた行政的な配慮、教育的な配慮が欲しい。

また、審査における正統な評価についてであるが、時々残念だなという評価の時があるのが現実である。これから本気で書をやろうとしている若い人達を、正しい評価をする気持ちで引っ張っていく形をおこしていかないと、若い人達が育ってこないと思っている。

委員： 皆さんの話を聞いて4点。

1つ目は、いろいろなディスカッションがあると思うが、公立学校の全学校に音楽と美術の教員を配置する事を提言をできないか。望むらくは伝統芸能と書道も、あえて妥協すれば数校掛け持ちでもいい。

2番目は、文化に関する情報は一つではいけない。市町村合併は行政の効率化のためにやっているのであって文化の事を考えてやっていない。具体的には、倉敷は真備と船穂を塗り潰しては絶対にいけない。高梁は成羽や吹屋を塗り潰しては絶対にいけない。観光情報とか経済情報とかロードアクセスに関する情報とかは一本化した情報を流してもよいが、文化情報は一つの情報に集約してはならない。

3番目は民間からの文化プロデューサーを育成し支援をする。

4 番目は、伝統文化ハンドブック。何があってその背景は何なんだよという事まで踏み込んだ、いわば伝統文化の情報図を作って欲しい。

以上4つの事は、基本的には、全体と個ということが非常に関わってくるが、ぜひ「強い個の連携」でありたい。「弱い個の併存」であっては絶対にならない。そういう姿勢を貫いていただければと思う。

3 その他

事務局：岡山芸術回廊、おかやま文化フォーラムについて説明

委員：芸術回廊補足

委員：県民文化祭・地域フェスティバル（美作地域）補足

4 閉会